

特集：豚由来 *Haemophilus pleuropneumoniae*
の薬剤感受性*

A Symposium: Antibiotic Susceptibility of *Haemophilus pleuropneumoniae* Isolated from the Pigs

今回のシンポジウムにあたって

高橋 勇 (日本獣医畜産大学)

*Haemophilus pleuropneumoniae** の薬剤感受性に関しては、1980年に本会の第7回のシンポジウムで取りあげたことがあり、その要旨は本会報第2号に掲載されている。

しかし、その後8年の間に国内で本菌感染症の発症例が増加しており、それらから分離される株の血清型の検討がすすむにつれて、従来から存在していた2型菌のほかに、1, 5, 6, 7型の菌が検出されるようになってきた。特に5型菌による感染症がかなり増加しつつあり、現在2型によるものとともに主流となりつつある。このため従来のワクチンでは効果が認められないこと、また一方では薬剤耐性菌の出現が報告されるようになってきたことなどから、当研究会でも本菌の薬剤感受性の問題を再度今回のシンポジウムでとりあげることにした。

すなわち、まず最初に豚のヘモフィルスの感染症の動向として、いかなる血清型の菌によるものが流行しているのかを再認識した上で、さらにこれらの野外分離菌の薬剤感受性に関する各研究者の検討成績を述べていただき、これらを集約して、本菌の薬剤感受性ないし耐性の実情を把握し、あわせて血清型と薬剤感受性の関係や本菌の薬剤感受性測定法の標準化の問題についても検討することとした。

以上が今回のシンポジウムの主旨である。

なお、本シンポジウムの結果、本菌の薬剤感受性測定法に関して、標準的な方法の確立が必要となってきたため、編集委員会で協議の上、演者の1人である山本孝史氏にこの点の検討をお願いした。その成績が提出されたので、追加資料として31頁に掲載した。

* 豚の胸膜肺炎の原因菌である *Haemophilus pleuropneumoniae* は、最近 *Actinobacillus pleuropneumoniae* とよばれているが、今回は従前の例にしたがって *H. pleuropneumoniae* とした。
本特集は、1988年5月7日に開催された第15回シンポジウムの講演要旨である。